

春の交通安全運動

4月6日から15日までの10日間、全国一斉に「春の交通安全運動」が行われました。

対馬市内でも交通安全啓発パレードや街頭キャンペーンなど交通事故防止の運動が行われました。今年に入り、対馬市では飲酒運転による事故が多発し、昨年の同期に比べ3割も多くなり、1名が死亡、30名以上の方が負傷しています。ドライバーの皆さん、飲酒運転や速度の出し過ぎ、運転中の携帯電話の使用など絶対にしないで安全運転に心がけましょう。

南署管内



交通事故(死亡)現場道路診断

4月13日、上県町佐須奈で、交通事故現場道路診断が行われました。

これは、同所で今年2月15日に、車が歩行者をはね死亡事故が発生したことから、再発を防止するため実施されたもので、警察、交通安全協会、学校関係者、地域、行政など関係者約30名が参加して、減速マークなど路面表示の確認や事故防止の方策が検討されました。



す。

対馬市(厳原支所)では、平成16年度のこの事業で、厳原宮谷地区に「地区案内板兼揭示板」が7基設置されました。

宮谷地区(多田喜一区长)では、完成までの間に、地区内の資源確認ワークショップ(参加者が問題解決のため、自主的な活動で行う講習会や研究会)を3回開催し、さらに資源確認探検ツアーも実施しました。

特にワークショップでは、地区住民によるアイデア出し、図案化修正作業、現地確認、説明文の作成までを行い、また、素材は対馬材にこだわろうとの住民の意見で、対馬森林組合の協力により設置されました。

北署管内



宝くじ助成事業で 掲示板設置

コミュニティ助成事業は、宝くじの収入を財源として地域社会の健全な発展と宝くじの普及広報を図る為に、財団法人自治総合センターが地域社会活動に助成を行うもので



消防職員意見発表会



最優秀賞の永田さん

4月12日、対馬市で、「第28回長崎県下消防職員意見発表会」が開催されました。

県下の10消防本部から15名の職員が参加して、消防職員として、日ごろの業務で感じたことや体談、自分の目標などを発表しました。

最優秀賞に輝いたのは、「地域の絆」をテーマに発表した佐世保市消防局代表の永田泰史さんで、災害時、真っ先に救助できるのは消防や自衛隊ではなく近くに住む人、地域の絆を強くして、災害に強いまちづくりを目指そうと発表しました。

その他の受賞者は次のとおりです。

【優秀賞】 野口尚徳（島原地域広域市町村圏組合消防本部代表）発表テーマ「救世主

誕生を目指し」 吉田由利子（長崎市消防局代表）発表テーマ「出会い」

【奨励賞】 横山幸司（新五島町消防本部代表）発表テーマ「幼い子供を守りたい」

韓国消防本部訪問

4月24日に、韓国釜山広域市港湾消防署職員と姉妹縁組をしている影島区の義勇消防隊（日本の消防団）の隊員58名が対馬市消防本部を訪れ、防火や消火技術などの意見交換を行い、今後の相互友好交流を続けていくことを確認しました。



消防団幹部会議を開催

4月3日、美津島地区消防団では、本年度幹部礼式訓練と事業計画等の確認のために正副分団長会議を開催しました。

当日は、あいにくの小雨模様のため美津島体育館で礼式訓練を実施した後、新任の正副分団長に辞令が交付されました。

会議では、今年の6月に美津島体育館で実施される県下消防団大会行事等が確認されました。

火災の無いまちづくりに協力ください。



通学路の安全点検

4月12日、久田小学校児童の交通事故防止、不審者からの安全確保などのため、学校、PTA、地元自治会、警察、市役所の関係者による「セーフティー・チャイルド・ガード作戦」が行われました。

児童代表も含め約30人が、学校周辺の通学路の安全点検を行い、横断歩道や信号機のほか、街路灯などの新設が要望されました。

あいさつをした対馬南署の香田交通課長は、「子どもたちを守るには警察だけでは出来ない。学校や地域が一体になって守っていく必要がある

。と、今回の作戦がその第一歩であると話しました。今後、この作戦は春と秋の交通安全運動にあわせ、各町で実施される予定です。

